



この1日間のコースでは、下記の内容を学習します。

- ピアレビューの役割を理解する
- 開発ライフサイクルの様々な段階で適切なレビュー技法を適用する
- 効果的なピアレビュープログラムを実装し、管理する
- 自分が行うレビュー活動の有効性の測定方法を理解する

■ コースの目的

このコースでは、次のことを学びます。

- ピアレビューの役割を理解する
- ソフトウェア品質の重要性を示す
- ソフトウェア開発ライフサイクルの様々な段階で適切なレビュー技法を適用する
- 小規模あるいは大規模なプロジェクトのためのソフトウェア品質計画を作成する
- ピアレビュープログラムを作成、実装する
- レビュー活動の有効性の測定方法を理解する

■ コースの成果

コースに参加すると、組織内で効果的なピアレビュープログラムを定義、設計、実装するために必要なスキルを身につけることができます。

下記の内容を学習します。

- 組織に適したレビュープロセスを定義する
- 品質のために本来必要なコストを把握する
- 成果物及びプロジェクトへの品質の作り込みを確実にする
- レビュー活動の状況を報告するためのメトリクスを定義する
- ソフトウェア品質計画を作成する
- レビュー実施要員の役割と責任を定義する

■ コース形式

演習をはさみながらプレゼンテーションを行います。コース教材は、プレゼンテーション資料、その他追加資料になります。

■ 対象者

- ソフトウェア品質管理担当者
- プロジェクトマネージャ
- ラインマネージャ
- ソフトウェア開発担当者
- その他ソフトウェアプロジェクト及び成果物の開発、保守、管理に携わる方

■ コース内容

- エラーにかかるコスト
- レビューの適用範囲
- レビューに関する6つの不可欠要素
- 受け入れ可能な品質レベルの特定
- レビューの定義
- 欠陥の拡大
- レビューにかかる工数の計画
- レビューの種類
- ピアレビューの構成
- レビューの参加者
- ピアレビューのプロセス
- ピアレビューの準備
- ピアレビューの実施
- ピアレビューのフォローアップ
- レビュープログラムの実装
- レビューにかかるコスト
- 影響分析 - ピアレビューの効果的な適用
- 品質計画の策定
- 進捗報告
- リスクとライフサイクル
- レビューのメトリクス
- 欠陥の特徴

■ 準備作業

準備は必要ありませんが、社内におけるレビューの手順やプロセスについて知識を深めておくと、このコースから得られるものも一層大きくなります。

■ 支援規格

ソフトウェア能力成熟度モデル(SW-CMM)
統合 CMM(CMMI)
ISO 15504

■ コース講師

経験豊富な講師が担当いたします。